



ガーデンを考える会

第7回被災地小学校支援報告



NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災被災地の小学校に対する支援活動として、岩手県釜石市の小学校5校および宮城県気仙沼市の小学校11校に、7回目の支援活動を6月の11～12日に行いました。

今回は気仙沼市の小学校10校を訪問し、花苗や植え込み資材の提供を行い、気仙沼の大島小学校と釜石市の5校には運送便にて必要物資を送付しました。詳細としては、初夏から晩秋花壇向けのペチュニアを主体とした1年草花苗等を約3300ポット、サツマイモやゴーヤ等の野菜苗を約500ポット、それを植え込むコンテナ235個、培養土650袋(14ℓ)および肥料500袋等。コンテナや花壇作りに必要な物資の支援や、一緒になって植え込み活動のお手伝いをする内容です。

6月12日の当日は会員有志13名が2班に分かれ、1班は面瀬小学校・松岩小学校・九条小学校・小原木小学校・中井小学校・唐桑小学校を訪れ、2班は鹿折小学校・新城小学校・小泉小学校・津谷小学校を訪れました。当日はあいにくの雨で、予定していた花壇への植え込み活動が中止になる小学校もありましたが、3校では体育館等で児童と一緒にの植え込み活動を行いました。

支援活動は今回で7回目になり、ゴーヤを使った緑のカーテンが2校、夏野菜のコンテナ植えや菜園作りが4校と、花苗で飾る以外の要望も増えてきています。また、今後としては、新しい花壇の製作や、プールの目隠しになる生け垣の製作、植物を使った花育授業など、コンテナ植え込み活動とは違った要望もあることがわかってきました。

国の復興予算は潤沢にあり、年度に使いきれない予算も多くあるとのマスコミ報道もありますが、各小学校に当てられる予算が特別多くなっている訳ではないのが現実だそうです。特に、校内美化等のための花壇作りには予算が回ってこず、花壇や通学路を花で飾りたくても、なかなかできないとの事でした。このため、我々のような支援活動は大変に有難く、できれば引き続き行ってもらいたいと期待が高いうちに思いました。

子どもたちと一緒に花や野菜を植え込んでみると、想像以上に喜んで、しか

も植物に興味を抱いてくれることが実感できます。植物がいかに人間に関わりが深く、花を愛でる楽しみや、食物としての大切さ、周囲や環境を和ませる効果など、一般的な授業だけでは学ぶことができないさまざまなことを教えてくれていると感じさせられます。

今回は必要な植物・物資、またそれらを購入する資金を、ガーデンを考える会、会員有志および園芸業界被災地支援の会から提供頂きました。ガーデンを考える会では継続的な支援活動を予定していますので、今回同様ぜひ、これらの活動に賛同し、ご協力頂けるようお願いいたします。

(NPO法人ガーデンを考える会)

会長 水野 隆

今回特別に支援活動に協賛いただいた 会員等の皆さま

アップルウェア(株)、キムラグリーン(株)、(株)シモジマ、セキスイエクステリア(株)、(有)角田ナーセリー、中島商事(株)、日本ポリ鉢販売(株)、(株)ハイポネックスジャパン、(株)ハクサン、ハクサンインターナショナル(株)、(株)花ごころ、(株)フラワーオークションジャパン、(株)芳樹園、(株)牧野、(株)ヤマトコーポレーション、(株)ユニゾン、(有)緑花技研、(株)レイ・ハウス、園芸業界被災地支援の会